



Environ
Energy
Economy
TSUKUBA

全体ワークショップ

つくばスタイル



- 1. 各アーティクルからの報告・提言**
- 2. 個別WSの報告への会場からの質問、意見**
- 3. 全体WSの論点提示**
- 4. 議長、個別WSコンビーナーの議論、会場とのやりとり**
- 5. 議長サマリー策定**
- 6. つくば3E宣言2008の提示、WSおよび会場の意見を反映**

総合的、統合的取り組みの論点

- 1) 各取り組みは、つくば市を構成する産学官民の合意、連帯のもとに進めることが重要（つくばパートナーシップ）。
- 2) 取り組みにおいて、社会的合意形成が重要。
- 3) 「つくばに閉じない」姿勢で取り組む。日本全体、世界全体でCO2が削減されていくことが重要。ライフサイクルアセスメントの視点が不可欠。
- 4) 各種取り組みを「システム」または「パッケージ」として統合して社会に適用することが重要。つくばは、フィールドで開発から実証、実用化、普及までのプロセスを計画、実行することが可能。
- 5) モニタリング、評価、見直しのサイクル（PDCA: plan, do, check, act)のもとで、推進。
- 6) 低炭素化を進める社会で暮らす市民生活のあるべき姿についての考察も重要。教育に反映。
- 7) つくば市の未来像という視点。特色を生かした将来像を描き、各種取り組みとの整合性を検討。

議長サマリー (案) -1

- 1)省エネルギー、低炭素化に関わる科学技術の革新のために、大学、公的、民間研究機関、産業界の連携を一層推進。
- 2)各取り組みには、産学官民のパートナーシップの構築が不可欠。オールつくば体制を推進。
- 3)つくば市内に実験フィールドを設定し、各種技術の統合、社会システムに関わる開発、実証実験を行う。また、これらの実用化、普及に至る一連のプロセスを、モニタリング、評価、見直しのサイクルのもとで実施する。プロセス全体を「つくばモデル」として構築する。

議長サマリー (案) -2

- 4)食料自給率向上、地産地消の拡大、森林・緑地保全の計画的推進、林業の振興、太陽電池敷設、都市構造の設計等を俯瞰した総合的な土地利用計画のもとで、バイオマスタウン構想を推進する。藻類BDFの実証試験を開始。バイオマス利活用によるCO2削減の達成目標は全体の5%。
- 5)自転車、公共交通へのモーダルシフトを促進するが、走行環境の整備、公共交通の再編、ICカード等の導入による利便性の向上、インセンティブが必要。中長期のコンパクトな（串と団子）都市構造を設計し、行政が意志を示し、早期に実験に取り組む。2030年に交通部門で50%CO2削減（全体の10%）。

議長サマリー（案） -3

- 6) 新エネルギー技術（系統と分散型の連携、マイクログリッドの実験的導入、エネルギーの効率的利用、コジェネレーション、自然エネルギーのニーズに合わせた導入） **CO2削減目標**
- 7) リユース、リサイクルの循環利用のしくみを構築（リサイクルセンターの効果的運用が課題か） **CO2削減への効果**
- 8) 各取り組みには **ライフサイクルアセスメント(LCA)** にもとづいた評価が必要（つくばでCO2排出が減少しても、そのために他の地域で増加してはなにもならない）。
- 9) **循環型社会**の育成、 **ライフスタイルの変革**を含む、 **低炭素社会**に向けた **価値観の転換**が必要。

議長サマリー (案) -4

10) 社会的側面からつくば市の将来を考えることも重要。文明論的価値観の転換期にあり、**未来に軸足を置いた思想、哲学について研究を進め、人間と自然のあるべき関係を理念として提示。**また、**伝統や都市と田園が共存する特色を生かした、健康で文化的環境の国際的教育文化都市を構想。具体的計画を策定。インターナショナルスクールの設置、整備は必須。**

11) **低炭素意識の涵養。環境教育の充実、持続的取り組み。**